

# “人間はいかにして自律的思考を形成しうるか？”

## 准教授 藤井 基貴 (教育哲学・道德教育)

1975年12月生まれ。2005年名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士課程修了、2007年名古屋大学高等教育研究センター特任講師、2008年静岡大学教育学部准教授。

2013年より第2期若手重点研究者、2016年より第3期若手重点研究者

### 研究概要

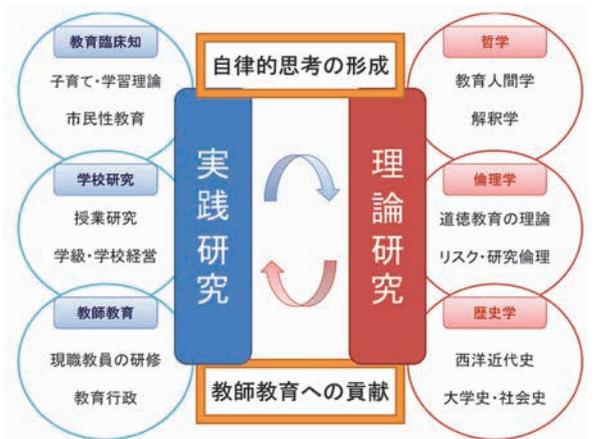
#### ①理論研究

1) 近代ドイツ教育学に関する思想的・歴史的研究、2) 大学における教員養成の理念および制度に関する国際比較研究、3) 研究倫理および学問の自律性に関する研究を進めています。近年では、本学の姉妹校であるネブラスカ大学オマハ校のHalla Kim教授らとともにドイツ哲学に関する国際共同研究ならびに日本における西洋哲学の受容史・影響作用史に関する研究にも取り組んでいます。

#### ②実践研究

「自律的思考」(Selbstdenken) を鍵概念として、その形成を目指す教育活動に関する実践的な研究を進めています。2015年度より「静岡大学道德教育研究会」を設立し、研究者や学校関係者と連携して道德教育の現代的課題に関する教材開発を推進しています。また研究室では防災教育の教材・授業開発に関する共同研究も行っています。

上記①、②を通して、教育学における「理論と実践の往還」をはかるとともに、より質の高い教員の養成に力を注いでいます。



### メッセージ

大学時代は哲学を学び、大学院進学後は教育学を専攻し、前職では高等教育の研究に従事し、本学に着任してからは教育哲学と道德教育を専門領域として研究活動を進めてまいりました。2010年度からは研究室の学生たちと共に防災教育や道德教育に関する教材および授業開発に取り組んでいます。

私の研究室では「Footwork & Network」、「Challenge & Change」、「Response & Responsibility」の三つを柱として、学生たちがどん欲に学び、行動することを奨励・応援しています。これまでに研究室に所属した学生たちの多くは、在学中に学校訪問活動や海外留学を経験し、卒業後も学校や保育園などの教育の場で実践を重ねています。今後も理論研究と実践研究を両輪として、地域に根ざしながら、世界を展望できる人材の育成に貢献できたらと思っています。

### 【主な研究業績】

#### 受賞歴：

教育史学会「研究奨励賞」(2012)、日本乳幼児教育学会「研究奨励賞」(2006)、兵庫県他主催「ぼうさい甲子園 (1.17防災未来賞)」「ぼうさい大賞」(2016)・「優秀賞」(2015)、大学教育改革フォーラムin東海「優秀ポスター賞」(2013)。

#### 外部資金獲得状況：

科学研究費補助金基盤研究 (C)「ドイツにおける『研究公正システム』の構築と展開に関する思想的・制度的研究」(2015-)、科学研究費補助金若手研究 (B)「近代ドイツにおける『衛生学・衛生教育』の誕生と普及に関する歴史的研究」(2012-2014)、科学研究費補助金若手研究 (B)「教員養成カリキュラムの『理論と実践の統合』に関する史的研究」(2009-2011) など。

#### 委員等：

文部科学省「中央教育審議会」専門委員 (2011-)、静岡県教育委員会「道德教育推進協議会」座長 (2009-)、岐阜県・白川町教育委員会「活動状況・点検評価」有識者委員 (2011-)、文部科学省委託事業「研究不正に対応する諸外国の体制等に関する調査研究」委員会委員 (2014) など。

#### 著書・論文：

- 1) 『道德教育を学ぶための重点項目100』(共著) 教育出版、2016。
- 2) 『研究倫理の確立を目指して—国際動向と日本の課題—』(共著) 東北大学出版会、2015。
- 3) 『希望をつむぎだす幼児教育』(共著) あいり出版、2013。
- 4) 「教育史におけるカント—大学史・教育思想史・影響作用史—」『日本カント研究』16、2015、67-86。
- 5) 「18世紀ドイツにおける子育ての近代化—フアウスト『衛生問答』に注目して—」『日本の教育史学』教育史学会編、55集、2012、85-97頁など。

若手重点研究者